

再び豊田英雄子先生をお訪ねして

一昨年冬、九十二歳と手紙に書いて下さった頃から、もう一度お訪ねしてみたいと思ひ、夏にも行かれず、たうとう十二月になつてしまつた。お休みになるのを待つて、これも七十七歳になる塙といふ縁戚の老人を見舞ふのを機會に、水戸に向向

いたのである。豊田先生は、明治九年、わが園幼稚園の創設に直接あたられた最初の保母で、實際保育の開拓者である。水戸の志士藤田東湖先生の姪に當られる。

塙の老人はなか／＼のハイカラで外國仕込故若い頃から葉巻ばかり吸つてゐたといふ、和製ルーズベルトだと、新聞記者が云つたよ、と笑つてゐた位で、教育方面の會合などにも進んで出かけてゐたから、自然豊田先生ともお親しくしてゐた。私が行くとすぐ、ほう、英雄子さん——いつも老人はかうおよびしてゐる——を訪ねに來られたかなと云つた。近頃多少弱つて來たと聞いて、郵送ですむ用事を、實はこの人を見舞ひたくて、わざ／＼來たのであつたが、

私があれば、豊田さんに行くものと思ひ込んでゐるから、はア、郵便屋さんの代りに一寸來てみたんですよと答へておいた。

英雄子さんもこの頃はちつとも會に出られないし、私めかう足が不自由になつてかゝらなるべく出かけないでゐるから、とんとその後の様子がわからないが、どうぞよろしく云つて下さいと、ものゝ一丁と離れてゐない所に住んでゐる老人から老人へ、東京から行つた私が傳言を頼まれた。

古風な水戸の上市通りを歩いて、見覚えのある門をくゞり、四枚格子の廣々とした玄關をあげて、案内をこふた。先生様先生様とまめに傳いてゐた老婢が、どうしたかしらと思つてゐたのにこの日も出て來たのもなつかしく、先生も、眼がれを外し外しわざ／＼出むかへて下さつて、お部屋に通された。庭前の梅が盛りにはまだ少し早く前にお訪ねした時と比べてそれが多少物足りぬ思ひであつた。

いつも乍ら幼稚園のお仕事を続けられ

て、まことに御苦勞様に存じますと、まづ勞らはれて、恐縮しながらも、さすがに先生程のお方の御挨拶は及び難いものといふ感に打たれた。そして、幼稚園の皆様は元氣でおつとめでいらつしやるか、倉橋さんにも大分お目にかゝらないが御機嫌であらうか、こゝへも訪ねて下さつた事があるといふような事を云はれたので、私もいろいろ幼稚園の様子をお話した。「幼児の教育」をお届けしてゐるので、それを樂しみに讀んでゐるとも云はれて、この頃の様子も相當に御承知のようであつた。

今度は決して昔の事はお尋ねしまい、思ひ出して頂くようなことは止めませうとつゝしんで居たけれど、つひうっかり、お年をきいてしまつた。もう四、五日で九十四歳になります、斯うも生きるつもりはありませんでした、いつの間にか年をとつてしまつたものです。今は三十歳になる一人の孫の世話をするやら、されるやら、それが何よりの樂しみでと仰言つた時は、着ぶくれのお出での先生が、なんとも慈しみ深いよいおばあ様らしく、黄八丈の召物がまことふさはしいとさへお見受けしたのであつ

た。

昔の生徒であつた人から進物の、これをお目にかけてませうと巻き物を持つて立たれた。お手つだひをして、それを柱にかけて拜見した。義公が太田に小さい庵を持ち、庭前の梅を愛された、それを眺めて書き物をして居られるといふ圖で、私が義公を崇拜してゐますので、と附け加へられた。いゝ物を見せて頂いた。

やがてお暇した、幼稚園の皆様宜しくと云はれた。この先生がどうぞいつ迄も御健在であるよう心に祈りつゝ御挨拶をして、塙の家に戻つて来た。そしてこの家の人達に、今お目にかゝつて来た様子を委しく傳へておいた。

かねぐの念願が届いて、先生も御健康老人も案外元氣であつたので、郵便屋さんのおつとめも無事にすんでまづよくかつた。安らかな氣持ちで、歸りの汽車に乗つた時は冬の日の短い盛りとてもうとつぶり暮れてしまつてゐた。

(新庄)

保育實習科新卒業者

東京女子高等師範學校保育實習科は昭和十三年三月、左の二十四名の新卒業者を保育界に送り出さうとしてゐます。皆それ〴〵適當な働き場所を得て斯界の爲熱心にその職に従事し度い希望にもえてゐます。御採用を切望致します。

氏名	出身學校	生年	月	日
井口美代子	居留民國立上海日本高女	大正八年	十一月	十六日
石川智恵	第一東京市立高女	大正八年	十一月	二十一日
石澤フミ	山形縣立山形第一高女	大正八年	十一月	三十日
今井滋子	東京府立第五高女	大正八年	十一月	十八日
今井彌生	東京府立第一高女	大正八年	十一月	十八日
岩本とよ	東京府立第一高女	大正八年	七月	二十五日
香川由里子	東京府立第一高女	大正八年	八月	二十八日
笠井芳信	東京府立第一高女	大正八年	九月	二日
柿内つづ	東京府立第一高女	大正八年	九月	三日
川村良子	東京府立第一高女	大正八年	九月	三日
小村信子	東京府立第一高女	大正八年	六月	十八日
櫻庭春咲	兵庫縣立第一高女	大正八年	六月	十八日
島村潔子	埼玉縣立第一高女	大正八年	二月	二十日
諏訪子	埼玉縣立第一高女	大正八年	二月	二十七日
鈴木幸江	愛知縣立津島高女	大正八年	九月	十二日
田中幸江	東京府立第五高女	大正八年	九月	十三日
竹内清江	東京府立第五高女	大正八年	四月	十五日
立花清江	千葉縣立安房高女	大正八年	三月	十七日
藤田茂登	新潟縣立第五高女	大正八年	五月	十六日
增田コウ	神奈川縣立第一高女	大正八年	五月	十五日
岡本貞子	熊本縣立第一高女	大正八年	八月	七日
安室敏子	名古屋市立第一高女	大正八年	十一月	三十日